臨牀 消化器内科
第 39 巻●総目次
Vol. 39／No. 1〜No. 13
(2024 年 1 月号〜12 月号)

特　集

No. 1　消化器内視鏡診療における鎮静
No. 2　IBD 診療―ますます増えた薬剤の選択とさらなる進化の展望
No. 3　サルコペニアと消化器疾患
No. 4　内科医が知っておくべき，肛門疾患の基礎知識
No. 5　肝細胞癌の集学的治療
No. 6　大腸内視鏡治療―CP/EMR/ESD/Underwater 関連手技の今
No. 7　脂肪肝の新概念：MASLD
No. 8　これからの胃癌診療
No. 9　消化器がん薬物療法〔増刊号〕
No. 10　自己免疫性肝疾患と ICI(免疫チェックポイント阻害薬)による肝障害
No. 11　急性胆囊炎・胆管炎を再考する
No. 12　小腸疾患に対する最新の内視鏡臨床
No. 13　良悪性肝門部胆管狭窄への内視鏡的アプローチ

●Vol. 39　No. 1　消化器内視鏡診療における鎮静

巻頭言　後藤田卓志　5〜6

1. 総　論

(1) 消化器内視鏡の鎮静に用いる薬剤
市島　諒二　7〜14

(2) 安全な消化器内視鏡のための鎮静前評価
水野　卓　15〜19

(3) 鎮静内視鏡におけるモニタリング・監視
佐藤　達也・中井　陽介
藤城　光弘　21〜28

2. 各　論

(1) 上部消化管内視鏡における鎮静
八田　和久・小池　智幸
千葉　隆士・阿部　寛子
尾形　洋平・正宗　淳　29〜34

(2) 大腸内視鏡における鎮静
吉田　直久・小西　英幸
吉澤　尚美・稲垣　恭和
土肥　統・伊藤　義人　35〜40

(3) 小腸内視鏡における鎮静
船山　陽平・矢野　智則　41〜45

(4) 胆膵内視鏡における鎮静
八木　伸・丸木　雄太
髙崎　哲郎・永塩　美邦
大場　彬博・肱岡　範　47〜54

(5) 緊急内視鏡における鎮静
山階　武・島谷　昌明　55〜60

3. トピックス

(1) 高齢患者に対する適切な鎮静法
山口　太輔　61〜67

(2) 小児に対する適切な鎮静法
中山　佳子　69〜73

(3) 内視鏡クリニックにおける鎮静の実際と工夫
石原　慎一・西　理子
土屋　貴愛　75〜83

(4) プロポフォールの実態と使い方
大木　大輔　84〜89

(5) スタッフに対する鎮静のトレーニング
竹中　完・工藤　正俊　90〜96

(6) 鎮静が関係した訴訟事例から学ぶ
日山　亨　97〜101

●Vol. 39　No. 2　IBD 診療―ますます増えた薬剤の選択とさらなる進化の展望

巻頭言　加藤　順　117〜118

2026/09/12 13:59:36

1. 治療薬の使い分けの総論と各論
(1) IBDはどうモニタリングし，どのように治療を変えていくのか
加藤　順　119〜126
(2) 治療選択におけるShared Decision Making
石川ひろの　127〜133
(3) IBDにおける免疫異常と分子標的薬の使い分けのrationale
高川　哲也・新﨑信一郎　134〜139
(4) 中等症UCにおけるバイオ製剤/JAK阻害薬の使い分け—抗IL-23抗体も含めて
中村　正直・山村　健史
前田　啓子・澤田つな騎
石川　恵里・川嶋　啓揮　140〜146
(5) Acute severeや重症のUCに対する治療戦略は変わったか？
堀尾　亮輔・加藤　順
太田　佑樹・對田　尚
齊藤　景子・加藤　直也　147〜152
(6) 抗IL-23抗体，JAK阻害薬の承認でCD治療は変わるのか？
本谷　聡・萩原　武　153〜159
2. 最近のトピック
(1) IBD関連腫瘍のトピック—IBD由来のserrated lesionについて
西尾　匡史・国崎　玲子
平澤　欣吾・小柏　剛
木村　英明・前田　愼　161〜167
(2) クローン病肛門病変からの発癌とダルバドストロセルによるクローン病肛門病変の治療
太田章比古・近藤　哲　168〜180
3. これからの新しい医療に対する展望
(1) UCにおける抗インテグリンαvβ6自己抗体について
桒田　威・塩川　雅広
妹尾　浩　181〜188
(2) 便移植と腸内細菌療法
石川　大　189〜198
(3) 腸管上皮再生医療（腸管上皮オルガノイド移植）
清水　寛路　199〜204
(4) IBD診療におけるartificial intelligence（AI）の活用
三好　潤・久松　理一　205〜211
(5) IBDの遠隔医療と病診連携・病病連携のこれから
林　優希・横山　佳浩
風間　友江・平山　大輔
仲瀬　裕志　212〜217

●Vol. 39　No. 3　サルコペニアと消化器疾患

巻頭言　浅岡　大介　237〜238
1. サルコペニア総論
(1) 高齢者におけるサルコペニアの診断
荒井　秀典　239〜243
(2) 高齢者におけるサルコペニアの予防・治療
小川　純人　244〜248
(3) 肝疾患におけるサルコペニアとそのメカニズム
西川　浩樹・金　秀基
朝井　章　249〜256
(4) 肝疾患におけるサルコペニアの診断
西口　修平　257〜262
(5) 肝疾患におけるサルコペニアの予防・治療
中野　暖・佐野　有哉
堤　翼・天野　恵介
川口　巧　263〜270
2. サルコペニアと腫瘍性疾患（胃・大腸・肝・胆道・膵臓）
(1) 胃癌とサルコペニア
久田　浩之・辻　陽介
藤城　光弘　271〜276
(2) 大腸癌とサルコペニア
奥川　喜永・北嶋　貴仁
川村　幹雄・大北　喜基
大井　正貴・問山　裕二　277〜285
(3) 胆道癌/膵癌とサルコペニア
細野　邦広・目黒　公輝
栗田　裕介・長谷川　翔
窪田　賢輔・中島　淳　286〜293
(4) サルコペニアと胃癌外科治療
加野　将之・鍋谷　圭宏
荒井　文乃・菊池　夏希
大竹　慶尭　294〜300
(5) サルコペニアと肝胆膵外科手術
海道　利実　301〜312
3. サルコペニアと非腫瘍性疾患（肝・膵臓・消化管）
(1) 肝疾患とサルコペニア
—NAFLD/NASH・肝硬変を中心に
三輪　貴生・華井　竜徳
清水　雅仁　313〜321
(2) 慢性膵炎とサルコペニア
松本諒太郎・菊田　和宏
濱田　晋・滝川　哲也
佐々木　滉・正宗　淳　322〜327
(3) 慢性便秘症とサルコペニア
竹田　努・浅岡　大介
永原　章仁　328〜334

2026/09/12 13:59:36

4. Topics
(1) サルコペニアと腸内細菌叢・食文化—京丹後長寿コホート研究の知見含め
安田　剛士・髙木　智久
内藤　裕二　335〜341
(2)「長寿いきいきサポート外来」(フレイル・サルコペニア外来)における取り組み
浅岡　大介・竹田　努
永原　章仁　342〜348

●Vol. 39　No. 4　内科医が知っておくべき，肛門疾患の基礎知識

巻頭言　山名　哲郎　365〜366
1. 検査・診かた
小野朋二郎・内海　昌子
久能　英法・三宅祐一朗
齋藤　徹　367〜372
2. 痔　核
高野　正太　373〜377
3. 痔　瘻
松田　聡・尾田　典隆
新井賢一郎・相川　佳子
松永　篤志・川上　和彦　379〜387
4. 裂　肛
石山元太郎　389〜393
5. 直 腸 脱
大橋　勝久・大橋　勝英　395〜400
6. 臀部膿皮症
岩川　和秀・磯田　健太　401〜405
7. 毛 巣 洞
仕垣幸太郎・児島　和孝
平良さやか　407〜412
8. 肛門そう痒症
高橋　里奈・坂本　一博
茂木　俊介・雨宮　浩太
河口　恵　413〜417
9. クローン病の肛門病変
山岡健太郎・吉川　周作
増田　勉・内田　秀樹
横尾　貴史・稲次　直樹　419〜426
10. 尖圭コンジローマ
日高　仁・日高　元
佐々木俊治・日高　久光　427〜434
11. 肛門癌
(1) 扁平上皮癌
三浦　卓也・諸橋　一
坂本　義之・鍵谷　卓司
佐藤健太郎・袴田　健一　435〜441
(2) その他の悪性疾患
佐々木みのり・佐々木　巌　443〜450
12. 排便困難—とくに直腸瘤について
松村奈緒美　451〜458
13. 便失禁(肛門括約筋不全など)
高橋　知子　459〜465

●Vol. 39　No. 5　肝細胞癌の集学的治療

巻頭言　加藤　直也　485〜486
1. 肝細胞癌治療アルゴリズム
建石　良介　487〜492
2. 肝細胞癌治療の実際
(1) 肝切除術
楊　知明・石井　隆道
波多野悦朗　493〜501
(2) 穿刺局所療法
森本　直樹　502〜508
(3) 肝動脈化学塞栓術および肝動注化学療法
平岡　淳・多田　藤政
中谷　康輔　509〜513
(4) 薬物療法
① 複合免疫療法(アテゾリズマブ＋ベバシズマブ)
中馬　誠・森本　学
沼田　和司・前田　愼　514〜522
② 複合免疫療法(デュルバルマブ＋トレメリムマブ)
葛谷　貞二・川部　直人
廣岡　芳樹　523〜530
③ 複合免疫療法以外の分子標的薬
山下　竜也・高田　昇
木戸　秀典・寺島　健志
山下　太郎　531〜539
④ 肝細胞癌に対する薬物療法の治療シークエンスの変遷と今後の展望
井上　将法・興梠　慧輔
小林　和史・叶川　直哉
小笠原定久・加藤　直也　540〜544
⑤ Intermediate stage での薬物療法
上嶋　一臣　545〜550
⑥ 薬物療法におけるバイオマーカー
小玉　尚宏・竹原　徹郎　551〜557
⑦ 薬物療法による conversion
土谷　薫・安井　豊
黒崎　雅之・泉　並木　558〜564
⑧ 薬物療法の将来展望
池田　公史　565〜572
(5) 粒子線治療を含む放射線治療
若月　優　573〜580
(6) 肝 移 植
吉住　朋晴・戸島　剛男
伊藤　心二　581〜588

●Vol. 39　No. 6　大腸内視鏡治療―CP/EMR/ESD/Underwater 関連手技の今
巻頭言　松田　尚久　605～606
1. 総　論
(1) 内視鏡治療の適応と内視鏡診断 Up to Date
唐渡修一郎・斎藤　彰一
鈴木　桂悟・千野　晶子
五十嵐正広・高松　学　607～615
(2) 内視鏡治療に伴う偶発症対策 Up to Date―偶発症(併発症)とその対策
高丸　博之・楠原　光謹
水口　康彦・豊嶋　直也
関口　正宇・山田　真善
斎藤　豊　616～626
2. 各　論
(1) Cold polypectomy
河村　卓二　627～631
(2) Polypectomy/Conventional EMR
稲場　淳・新村　健介
池松　弘朗　632～639
(3) Underwater EMR
山階　武　640～648
(4) Tip-in EMR
横山英一郎・今井健一郎
高田　和典・岸田　圭弘
伊藤　紗代・堀田　欣一　649～654
(5) Precutting EMR/Hybrid ESD
吉井　新二・三宅　高和
山川　司・山野　泰穂
仲瀬　裕志　655～662
(6) ESD：Device-assisted traction methods
永田　充・並木　将行
藤川　智章・宗像　博美　663～670
(7) ESD：Pocket-creation method
森川　昇玲・林　芳和
加賀谷結華・石井　宏明
竹澤　敬人・山本　博徳　671～677
(8) ESD：Water pressure method (WPM)
飽本　哲兵・増永　哲平
矢作　直久・加藤　元彦　678～684
(9) Underwater ESD
小山　洋平・根本　大樹
福澤　誠克・河合　隆
糸井　隆夫　685～691
(10) Peranal endoscopic myectomy (PAEM)
石田　亮介・豊永　高史
阪口　博哉・阿部　洋文
吉崎　哲也・児玉　裕三　692～697
(11) 米国における endoscopic full-thickness resection (EFTR)および内視鏡ロボット手術の現状と将来展望
相原　弘之　698～705
(12) Laparoscopic and endoscopic cooperative surgery (LECS)
朝山　直樹・永田　信二
安達　智洋・鴫田賢次郎
福本　晃・三口　真司　706～714
●Vol. 39　No. 7　脂肪肝の新概念：MASLD
巻頭言　川口　巧　733～735
1. 日本人 MASLD の Natural History
堤　翼・鈴木　浩之
福永　秀平・中野　聖士
中野　暖・川口　巧　736～741
2. MASLD 病態進行における宿主遺伝子要因のインパクト
芥田　憲夫　742～749
3. MASLD と糖尿病関連遺伝子
小木曽智美　750～755
4. MASH の病態
(1) 肝臓内エネルギー代謝と VLDL 分泌抑制
嘉数　英二　757～761
(2) MASLD/MASH の病態進展における脂質代謝の影響
今　一義　762～767
(3) MASLD と脂肪酸組成の関係
三宅　映己・古川　慎哉
日浅　陽一　768～772
(4) MASLD と酸化ストレス
小田　耕平　773～778
5. MASLD の画像診断
(1) MASLD の超音波
中野　聖士・川口真知子
水島　靖子・黒松　亮子
内藤　嘉紀・川口　巧　779～784
(2) MRI を用いた MASLD の画像診断
小林　貴・岩城　慶大
野上　麻子・米田　正人
中島　淳　785～791
6. 肝発癌ハイリスク患者の囲い込み―HCC ハイリスク群の同定：FIB-3 index
湧田　暁子・狩山　和也
塩田　祥平・能祖　一裕　792～796
7. MASH の治療
(1) Alda-1 によるヒドロキシノネナール(HNE)が惹起した肝細胞変性の抑制
木戸　秀典・柳　昌宏
山嶋　哲盛・水腰英四郎
山下　太郎　797～803

2026/09/12 13:59:36

（2）ルビプロストンによる腸管バリア治療
結束　貴臣・小林　　貴
中島　　淳　804〜812
（3）選択的 PPARα モジュレーター
江口有一郎　813〜822

●Vol. 39　No. 8　これからの胃癌診療
巻頭言―胃癌診療 20 年の変遷
小野　裕之　845〜846
1．これからの胃癌検診
間部　克裕・津田　桃子
松本　美櫻・井上　和彦
春間　　賢・加藤　元嗣　847〜854
2．*H. pylori* 関連胃癌の内視鏡診断
小林　正明・堀　　亜洲
富吉　　圭・高橋　祥史
今井　径卓・塩路　和彦　855〜861
3．*H. pylori* 非関連胃癌の内視鏡診断
赤澤　陽一・上山　浩也
八尾　隆史・永原　章仁　862〜871
4．胃癌の放射線診断
西牟田雄祐・鶴丸　大介
甲斐　聖広・南條　勝哉
石神　康生　872〜881
5．早期胃癌に対する内視鏡治療
川田　　登・小野　裕之　882〜889
6．早期胃癌に対する低侵襲外科手術
幕内　梨恵　890〜896
7．進行胃癌に対する低侵襲外科手術
布施　匡啓・德永　正則
奥野　圭祐・谷岡　利朗
春木　茂男・絹笠　祐介　897〜904
8．胃癌に対する Conversion surgery
中西　香企・小寺　泰弘　905〜912
9．腹膜播種のある胃癌に対する治療―パクリタキセル腹腔内投与（IP-PTX）併用 SOX 療法の経験を交えて
齋藤　　心・山口　博紀
高橋　和也・倉科憲太郎
佐田　尚宏・北山　丈二　913〜920
10．切除不能胃癌に対する薬物療法
鈴木　伸三　921〜930
11．胃癌のゲノム医療
久保田洋平・砂川　優　931〜939
12．胃癌におけるプレシジョン医療
中山　厳馬　940〜950
13．胃癌診断と治療における AI の現状と展望
平澤　俊明・並河　　健
堀内　裕介・藤崎　順子
多田　智裕・後藤田卓志　951〜959

●Vol. 39　No. 9　消化器がん薬物療法
総論　薬物療法の位置づけ
朴　　成和　983〜987
第 1 部　各臓器がんにおける現在の標準治療と今後の展望
第 1 章　食 道 癌
Ⅰ．食道癌に対する周術期補助化学療法
1．本邦と欧米における現況
對馬　隆浩　990〜998
2．今後の展望
對馬　隆浩　999〜1001
Ⅱ．食道癌に対する化学放射線療法
小倉　　望・山本　　駿　1002〜1008
Ⅲ．切除不能食道癌に対する化学療法
1．現在の標準治療とそこに至るエビデンス
小倉　　望・山本　　駿　1009〜1013
2．治療戦略
小倉　　望・山本　　駿　1014〜1017
3．課題と今後の展望
小倉　　望・山本　　駿　1018〜1020
第 2 章　胃　　癌
Ⅰ．胃癌に対する周術期補助化学療法
1．本邦と欧米における現況
中山　厳馬　1022〜1036
2．今後の展望
中山　厳馬　1037〜1041
Ⅱ．切除不能胃癌に対する化学療法
1．現在の標準治療とそこに至るエビデンス
牧山　明資　1042〜1047
2．治療戦略
牧山　明資　1048〜1051
3．課題と今後の展望
牧山　明資　1052〜1054
第 3 章　膵　　癌
Ⅰ．膵癌に対する周術期補助化学療法
1．本邦と欧米における現況
石垣　和祥　1056〜1063
2．今後の展望
石垣　和祥　1064〜1068
Ⅱ．切除不能膵癌に対する化学療法
1．現在の標準治療とそこに至るエビデンス
大場　彬博　1069〜1078
2．治療戦略
大場　彬博　1079〜1083
3．課題と今後の展望
大場　彬博　1084〜1087

2026/09/12 13:59:36

第 4 章　胆道癌(肝内胆管癌を含む)
Ⅰ．胆道癌に対する周術期補助化学療法
1．本邦と欧米における現況
井岡　達也　1090〜1093
2．今後の展望
井岡　達也　1094〜1098
Ⅱ．切除不能胆道癌に対する化学療法
1．現在の標準治療とそこに至るエビデンス
戸塚雄一朗・上野　　誠　1099〜1103
2．治療戦略
濵口　智美・上野　　誠　1104〜1107
3．課題と今後の展望
上野　　誠　1108〜1110
第 5 章　肝細胞癌
Ⅰ．肝細胞癌に対する集学的治療
1．切除可能例に対する集学的治療
池田　公史　1112〜1118
2．切除不能例に対する集学的治療(非薬物療法を中心に)
山口　将太・池田　公史　1119〜1127
Ⅱ．切除不能肝細胞癌に対する化学療法
1．現在の標準治療とそこに至るエビデンス
加藤　紘大・池田　公史　1128〜1133
2．治療戦略
平　　知尚・池田　公史　1134〜1139
3．課題と今後の展望
池田　公史　1140〜1143
第 6 章　大 腸 癌
Ⅰ．大腸癌に対する周術期補助化学療法
1．本邦と欧米における現況
児玉　紘幸・谷口　浩也　1146〜1152
2．今後の展望
児玉　紘幸・谷口　浩也　1153〜1157
Ⅱ．切除不能大腸癌に対する化学療法
1．現在の標準治療とそこに至るエビデンス
斎藤　優樹・平田　賢郎　1158〜1165
2．治療戦略
斎藤　優樹・平田　賢郎　1166〜1172
3．課題と今後の展望
斎藤　優樹・平田　賢郎　1173〜1175
第2部　消化器領域の希少がんに対する化学療法
第 1 章　神経内分泌腫瘍
森實　千種　1178〜1184
第 2 章　消化管間葉系腫瘍
平野　秀和　1185〜1192
第 3 章　小 腸 癌
廣瀬　俊晴　1193〜1200
第 3 部　消化器がん領域における化学療法の将来展望
第 1 章　胃癌・大腸癌におけるゲノム医療と分子標的薬
夏越　啓多・沖　　英次　1202〜1208
第 2 章　免疫療法の展望
石塚　保亘・舛石　俊樹　1209〜1218
第 3 章　Post Genome 時代の化学療法―消化管がんのゲノム医療の問題点を解決するための multiomics
庄司　広和・平野　秀和
足立　　淳　1219〜1225
第 4 章　Conversion Surgery―現況と展望
横井　亮磨・安福　　至
深田　真宏・松橋　延壽　1226〜1232
●Vol. 39　No. 10　自己免疫性肝疾患と ICI(免疫チェックポイント阻害薬)による肝障害
巻頭言　田中　　篤　1243〜1244
1．自己免疫性肝疾患
(1)肝臓における自己免疫応答
下田　慎治　1245〜1249
(2)病態における腸内細菌の役割
中本　伸宏　1250〜1257
(3)自己免疫性肝炎(AIH)―急性発症例を中心に
阿部　雅則　1258〜1263
(4)原発性胆汁性胆管炎(PBC)―治療を巡る課題
小森　敦正　1264〜1270
(5)原発性硬化性胆管炎(PSC)の諸問題
藤澤　聡郎・福間　泰斗
池村　宗朗・冨嶋　　享
石井　重登・伊佐山浩通　1271〜1278
(6)アウトカムとしての健康関連 QOL
髙橋　敦史・阿部　和道
大平　弘正　1279〜1285
(7)PBC-AIH オーバーラップ
川田　一仁　1286〜1290
(8)小児の自己免疫性肝疾患
梅津守一郎　1291〜1295
(9)肝移植―いつ，だれに，どのように
赤松　延久・長谷川　潔　1296〜1302
2．ICI による肝障害
(1)疫学・臨床像
伊藤　隆徳・川嶋　啓揮　1303〜1310
(2)病理学的側面
原田　憲一・吉村かおり　1311〜1317
(3)治療・難治例への対策
田所　智子・谷　　丈二
正木　　勉　1318〜1325

2026/09/12 13:59:36

(4) 胆管炎
横出 正隆・塩川 雅広
川上 尚人・児玉 裕三
妹尾 浩 1326〜1334

●Vol. 39 No. 11 急性胆囊炎・胆管炎を再考する

巻頭言―急性胆道炎診療の変遷と今後
遠藤 格 1355〜1358
1. 急性胆管炎・胆囊炎診療バンドル
真弓 俊彦・藤岡奈加子 1359〜1363
2. 急性胆管炎の治療方針・重症度分類
三浦 文彦・貝沼 雅彦
藤本 大裕・高島 順平
山崎 健司・小林 宏寿 1364〜1372
3. 急性胆囊炎の治療方針・重症度分類
岡本 好司・上原 智仁
野口 純也・沖本 隆司
又吉 信貴・山吉 隆友
新山 新・井上 征雄
木戸川秀生 1373〜1382
4. 急性胆管炎に対するドレナージ治療 up-to-date
向井俊太郎・糸井 隆夫 1383〜1391
5. 急性胆囊炎に対するドレナージ治療 up-to-date
林 伸彦・安田 一朗 1393〜1399
6. 術後再建腸管における胆管・胆囊ドレナージ
川路 祐輝・田村 崇
山下 泰伸・糸永 昌弘
蘆田 玲子・北野 雅之 1400〜1407
7. 気腫性胆囊炎・壊疽性胆囊炎の診断・治療
桜井 博仁・山家研一郎
高見 一弘・近藤 典子
山本久仁治・片寄 友 1408〜1413
8. 無石胆囊炎の診断・治療
河本 博文 1415〜1419
9. 黄色肉芽腫性胆囊炎の診断・治療
田中 浩敬・大野栄三郎
葛谷 貞二・中岡 和徳
橋本 千樹・廣岡 芳樹 1421〜1426
10. 胆囊軸捻転症，胆囊出血の診断・治療
井上 亨悦・相澤 栄俊
遠藤 裕平・渡部 文昭
笹沼 英紀・野田 弘志
佐田 尚宏・力山 敏樹 1427〜1431
11. 急性胆囊炎に対する外科治療の考え方
棚橋 亨・本田 五郎
川本 裕介・松永雄太郎
大目 祐介・有泉 俊一 1433〜1441
12. 急性胆囊炎に対する腹腔鏡下胆囊摘出術の基本手技，危険回避手術の適応と方法
梅澤 昭子・春田 英律
千葉 小夜・今村 清隆
関 洋介・笠間 和典 1442〜1450

●Vol. 39 No. 12 小腸疾患に対する最新の内視鏡臨床

巻頭言 矢野 智則 1475〜1476
1. 小腸疾患診療における内視鏡の役割
江﨑 幹宏・芥川 剛至
武富 啓展・荻野 祐也
貞島 健人・島村 拓弥
鶴岡ななえ 1477〜1483
2. 小腸カプセル内視鏡の進化と展望
壷井 章克・重信修宇也
松原 由佳・平田 一成
岡 志郎 1484〜1491
3. 小腸デバイス内視鏡の進化と展望
細江 直樹・高石 官均
加藤 元彦・金井 隆典 1492〜1496
4. OGIB の定義の変遷
中村 哲也 1497〜1502
5. 小腸出血に対する最新の診断治療戦略
大宮 直木 1503〜1508
6. Heyde 症候群の小腸血管性病変の特徴と治療
井上 健・彌重 匡輝
全 完・堀内 久徳
的場 聖明・伊藤 義人 1509〜1518
7. カプセル内視鏡を用いたクローン病モニタリング
大森 鉄平 1519〜1527
8. バルーン内視鏡を用いたクローン病モニタリング
竹中 健人・河本 亜美
日比谷秀爾・大塚 和朗
岡本 隆一 1529〜1536
9. クローン病小腸狭窄に対するバルーン拡張術
大和田 潤・矢野 智則 1537〜1544
10. 腫瘍性疾患に対する最新の診断治療戦略
中村 正直・山村 健史
前田 啓子・澤田つな騎
石川 恵里・川嶋 啓揮 1545〜1552
11. 家族性大腸腺腫症の(十二指腸を含む)小腸病変に対する内視鏡治療
竹内 洋司・中平 博子
田中久美子・高山 哲治
石川 秀樹 1553〜1558

12. Peutz-Jeghers 症候群に対する検査と内視鏡治療
横山　孝二　1559〜1565
13. 慢性偽性腸閉塞に対する PEG-J 造設とその管理
大久保秀則　1567〜1574

●Vol. 39　No. 13　良悪性肝門部胆管狭窄への内視鏡的アプローチ

巻頭言　河本　博文　1599〜1600
1. 肝門部胆管狭窄の診断ストラテジー
石田　祐介・土屋　直壮
古賀　毅彦・松元　慶亮
福山　真・平井　郁仁　1601〜1610
2. 肝門部領域胆管癌の経口胆道鏡による進展度診断
勝倉　暢洋・土井　晋平
足立　貴子・渡邉　彩子
松本光太郎・辻川　尊之　1611〜1616
3. 肝門部領域胆管癌の切除可能性分類と治療戦略
栗山　直久・飯澤　祐介
村田　泰洋・種村　彰洋
岸和田昌之・水野　修吾　1617〜1626
4. 良性肝門部胆管狭窄に対する経乳頭的内視鏡治療
佐藤　達也・石垣　和祥
齋藤　友隆・濱田　毅
高原　楠昊・藤城　光弘　1627〜1632
5. 切除可能悪性肝門部胆管狭窄に対する術前胆道ドレナージ
石渡　裕俊・佐藤　純也
坂本　拡基・土井　拓矢
山村　昌大　1633〜1637
6. 切除不能悪性肝門部胆管狭窄に対する胆道ドレナージ
(1) インサイドステント
菅野　良秀　1638〜1647
(2) uncovered SEMS(stent-in-stent 法)
加藤　博也・友田　健
松三　明宏・松本　和幸　1648〜1654
(3) uncovered SEMS(side-by-side 法)
内藤　格・井上　匡央
吉田　道弘　1655〜1663
(4) Fully covered SEMS
藤澤　聡郎・高橋　翔
高﨑　祐介・冨嶋　享
石井　重登・伊佐山浩通　1664〜1670
(5) EUS-BD
山重　大樹・肱岡　範
永塩　美邦・奥坂　拓志　1671〜1680
7. 切除不能悪性肝門部胆管狭窄に対する内視鏡的 RFA(ラジオ波焼灼療法)
井上　匡央・北野　礼奈
指宿　麻悠・伊藤　清顕　1681〜1688
8. 良性肝門部胆管空腸吻合部狭窄に対する内視鏡的治療
齋藤　圭・藤澤真理子
野村　舟三・大木　庸子
北原　麻衣・木暮　宏史　1689〜1695
9. 消化管再建術後の悪性肝門部胆管狭窄に対する内視鏡的治療
向井俊太郎・糸井　隆夫　1697〜1704

内視鏡の読み方(連載)

Vol. 39　No. 1
HIV 感染者に併発したサイトメガロウイルス性食道潰瘍の 1 例
樋口　和寿・後藤　修
岩切　勝彦　105〜109

Vol. 39　No. 2
早期大腸癌の深達度診断と IEE
二口　俊樹・玉井　尚人
貴家　功輔・鵜飼なつこ
炭山　和毅　224〜229

Vol. 39　No. 3
粘膜下腫瘍様の形態をとる大腸病変の鑑別
大隅　瞬・深川　一史
永坂　拓也・新井　冨生
小野　敏嗣　349〜353

Vol. 39　No. 4
潰瘍性大腸炎を背景とした隆起性病変─腫瘍と非腫瘍病変の鑑別
城山真美子・坂本　琢
秋山慎太郎・前田　晃樹
松原　大祐・土屋輝一郎　466〜471

Vol. 39　No. 5
胃の褪色調陥凹性病変の鑑別診断
伊藤　孝助・平澤　俊明
堀内　裕介・石山晃世志
由雄　敏之・後藤田卓志　593〜598

Vol. 39　No. 6
大腸超拡大内視鏡の診断と AI による診断支援
三澤　将史・工藤　進英
田村　恵理・宮地　英行
若村　邦彦・馬場　俊之

2026/09/12 13:59:36

根本　哲生　715〜720

Vol. 39　No. 7
制酸剤投与による質的診断が可能になった，*H. pylori* 未感染粘膜におけるたこいぼびらん様病変の１例
秋山　英俊・上尾　哲也
安部　真琴・木本　喬博
成安　赳彦・村上　和成　832〜837

Vol. 39　No. 10
二つのコンポーネントを有した早期胃癌の１例
竹村　直起・吉田　尚弘
中西　宏佳・津山　翔
湊　宏・土山　寿志　1343〜1348

Vol. 39　No. 11
腸管 MALT リンパ腫
小林　亮介・田辺美樹子
平澤　欣吾・前田　慎　1457〜1460

Vol. 39　No. 12
十二指腸神経内分泌腫瘍
石川裕美子・後藤　修
土生　亜実・野田　啓人
松下　晃・岩切　勝彦　1581〜1585

Vol. 39　No. 13
浸水最大倍率観察における微小血管構築像とフルズームマーキングが範囲診断に非常に有効であった除菌後高分化腺癌の１例
窪田　綾子・内多　訓久
重久友理子・岩崎　丈紘
頼田　顕辞　1712〜1715

「胃炎の京都分類」の使い方（連載）

Vol. 39　No. 1
第 16 回　“フジツボ”様所見の意味合いは
春間　賢・砂金　彩
鎌田　智有　102〜104

Vol. 39　No. 2
第 17 回　陥凹型びらんと体部びらんとはどこが違うのか
平田　喜裕　219〜223

Vol. 39　No. 3
第 18 回　ひび割れ粘膜と敷石状粘膜の違いはなにか
宮本　秀一　354〜358

Vol. 39　No. 4
第 19 回　PPI 胃症と P-CAB 胃症に違いがあるのか
久保　公利・張　辛寒
田中　一光　473〜478

Vol. 39　No. 5
第 20 回　固着粘液は何を意味するか
寺尾　秀一　589〜592

Vol. 39　No. 6
第 21 回　蜘蛛の巣様粘液は固着粘液とどこが違うのか
金子　裕明　721〜726

Vol. 39　No. 7
第 22 回　残存胃底腺粘膜の形態には意味があるのか
丸山　保彦・安田　和世
馬場　聡　823〜830

Vol. 39　No. 8
第 23 回　胃炎と胃癌でみられる白点は何を意味するのか
土山　寿志・中西　宏佳　961〜966

Vol. 39　No. 10
第 24 回　ピロリ除菌は自己免疫性胃炎の自然史を変えるのか
小寺　徹　1336〜1342

Vol. 39　No. 11
第 25 回　NHPH 感染胃炎と *H. pylori* 感染胃炎による前庭部優位胃炎の違いは
塚平　俊久・小林奈津子
吾川　弘之・関口　恭弘
小平日実子・太田　浩良　1461〜1467

Vol. 39　No. 12
第 26 回　NHPH 感染と *H. pylori* 感染による鳥肌胃炎の違いは
徳永　健吾・三好佐和子
井田　陽介・神保　陽子
大野亜希子・久松　理一　1587〜1592

消化器内科医が知っておくべき低侵襲手術（連載）

Vol. 39　No. 11
第１回　消化器外科におけるロボット手術の現状と課題
宇山　一朗・柴崎　晋
田中　毅・中内　雅也
稲葉　一樹・須田　康一　1451〜1455

2026/09/12 13:59:36

Vol. 39　No. 12
第 2 回　食道疾患における低侵襲手術
竹内　優志・松田　　諭
川久保博文・北川　雄光　1575～1580

Vol. 39　No. 13
第 3 回　胃疾患に対する低侵襲手術
柴崎　　晋・中内　雅也
田中　　毅・稲葉　一樹
宇山　一朗・須田　康一　1705～1711

学会だより

Vol. 39　No. 1
第 78 回 日本消化器外科学会総会
飯田　通久・永野　浩昭　74

Vol. 39　No. 2
JDDW2023 第 27 回 日本肝臓学会大会
四柳　　宏　218

Vol. 39　No. 4
JDDW2023 第 21 回 日本消化器外科学会大会
堀口　明彦　388
JDDW2023 第 106 回 日本消化器内視鏡学会総会
矢作　直久　406
JDDW2023 第 65 回 日本消化器病学会大会
坂本　直哉　442

Vol. 39　No. 10
第 110 回 日本消化器病学会総会
金井　隆典　1335

Vol. 39　No. 11
第 60 回 日本肝臓学会総会
長岡　克弥　1414
第 107 回 日本消化器内視鏡学会総会
山野　泰穂　1432

Vol. 39　No. 12
第 79 回 日本消化器外科学会総会
長谷川　寛・掛地　吉弘　1528

『臨牀消化器内科』編集委員会

編 集 委 員：藤城　光弘，松田　尚久，山本　頼正，佐田　尚宏，四柳　　宏，
中井　陽介，山道　信毅，角嶋　直美，小池　和彦

編集協力者：樫田　博史

ゲストエディター：加藤　　順(No. 2)，浅岡　大介(No. 3)，山名　哲郎(No. 4)，加藤　直也(No. 5)，
川口　　巧(No. 7)，朴　　成和(No. 9)，田中　　篤(No. 10)，矢野　智則(No. 12)，
木暮　宏史(No. 13)

歴代編集委員：岡　　博(故人)，島津　久明(故人)，玉熊　正悦(故人)，棟方　昭博，市倉　　隆，
中村　孝司(故人)，丹羽　寛文(故人)，田尻　久雄，五十嵐正広，一瀬　雅夫，
杉山　政則，屋嘉比康治

2026/09/12 13:59:36